

平成29年 諏訪地域振興局 主なできごと

諏訪地域振興局

月	タイトル	内容
通年	地域振興局における「横断的な課題」の解決に向けた取組の推進	<p>諏訪地域振興局長が他の現地機関を統括し、解決に向けてリーダーシップを発揮する「横断的な課題」として、「諏訪湖を活かしたまちづくり」「八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした広域観光」を設定し、さまざまな取組を推進しました。</p> <p>新設された「地域振興推進費」も活用しながら、「諏訪湖を活かしたまちづくり」については住民団体との協働によるヒシ除去作業やカヌー・サイクリングの体験会、「八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした広域観光」については信州デスティネーションキャンペーンと連携した情報発信やユニバーサルツーリズムをテーマとする講演会などを行いました。</p>
通年	「諏訪湖創生ビジョン」の策定に向けて意見交換等を実施	<p>諏訪湖の水環境保全と「諏訪湖を活かしたまちづくり」を一体的に進めることで「泳ぎたくなる諏訪湖」「シジミが採れる諏訪湖」「誰もが訪れたい諏訪湖」を実現する道筋を示す「諏訪湖創生ビジョン」の策定に向け、さまざまな意見交換等を行いました。</p> <p>地域の皆様との10回の意見交換会の開催や、アンケートの実施により、延べ約2,000人の皆様の意見をお聞きし、「子どもたちが遊べる環境をつくる必要」など、多くの意見をいただきました。ビジョンは、今年度中に策定する予定です。</p>
4月	諏訪地域振興局がスタート	<p>地域重視・現場重視の方針のもと、現地機関同士が連携し、地域の課題を主体的・積極的に解決するため、4月1日に諏訪地域振興局が設置されました。開局にあたり酒井局長からは、「「諏訪湖創生ビジョン」の策定」や八ヶ岳エリアを中心とした広域観光連携の推進など、諏訪地域の強みをさらに磨くとともに、積極的にスピード感を持って諏訪地域の課題に取り組んでいきたい。」との訓示がありました。</p>
5月～	諏訪湖の環境改善に向けた取組の実施	<p>諏訪湖環境改善行動会議(会長:諏訪地域振興局長)では、官民協働による各種の活動に取り組みました。今年度の手作業によるヒシの抜き取りは、7月に初島周辺で6日間実施し、延べ75団体210人の参加により約14トンのヒシを除去しました。また、7月には植物プランクトンを食べるアメーバが大量に発生し、その死骸が白い膜状になって湖周に大量に打ち寄せ、腐敗して悪臭の原因となりましたが、諏訪湖が生態系的にもまだまだ不安定であることが示されました。</p>
5月	農・工・観の新たな農業モデルを目指す大平地区工事着工	<p>「農業」「工業」「観光」が連携した新たな農業モデルを目指している、経営体育成基盤整備事業「大平地区」(富士見町)において、区画整理工事に着工しました。当地区では新たな農業法人による雇用創出や観光連携により農村活性化を目指すとともに、中心経営体へ農地を集積することにより受益者負担の軽減を図ります。</p>
7月	しあわせ信州移動知事室(諏訪地域)の実施	<p>知事が一定期間ひとつの地域に腰を落ち着けて、地域の方々との対話や施設の訪問などにより「共感と対話の県政」を推進していく「しあわせ信州移動知事室」が7月10日から12日の3日間、諏訪地域で実施されました。</p> <p>期間中、市町村長と県現地機関の長が諏訪地域の広域的な課題等について話し合う「諏訪地域戦略会議」の開催をはじめ、ものづくり企業の訪問や諏訪湖の環境改善の取組の視察のほか、若者や事業者等との対話などが行われました。</p>

月	タイトル	内容
7月～9月	信州デスティネーションキャンペーン開催	7月1日から9月30日まで、県、市町村、JR、民間が一体となって取り組む観光キャンペーン、長野県では7年ぶり5回目となる「信州デスティネーションキャンペーン(信州DC)」が開催されました。 「世界級リゾートへ、ようこそ。山の信州」をキャッチフレーズに、「癒し」、「アウトドア」、「歴史・文化」、「食」の4つをテーマとして、長野県の魅力が全国に向けて発信されるよう、諏訪地域でもさまざまなイベントが行われ、多くの観光客が訪れました。
7月	長野県消防ポンプ操法大会で優勝	7月30日に中野市で開催された「第59回長野県消防ポンプ操法大会」において、諏訪地区代表の消防団が優勝を独占しました。 「ポンプ車操法の部」では富士見町消防団が3年ぶりに、「小型ポンプ操法の部」では諏訪市消防団が初優勝を果たしました。県の消防ポンプ操法大会で諏訪地区が優勝を独占したのは19年ぶりです。
9月	原村でテンサイシストセンチュウの発生確認	原村の一部のほ場で、国内初のテンサイシストセンチュウの発生を確認しました。この害虫は、主にテンサイ、キャベツ等に寄生し、養分を摂取するため生育の遅れや収穫量が減るなどの重大な損害を与えることから、国、原村、JA等と協力し約2か月にわたり土壌調査を実施しました。 今後は、調査結果に基づき発生が確認されたほ場の防除対策の実施を行う予定です。
9月	治山研究発表会において4年連続最優秀賞受賞	9月20～21日に東京で開催された全国の技術者が集まる治山研究発表会において、林務課職員が「木を沈めて河を鎮める」との題で研究を発表し、最優秀賞を受賞しました。 諏訪地域振興局林務課職員の同賞の受賞は4年連続であり、今回の受賞により各専門誌から同内容の投稿依頼が続いています。
10月	「諏訪圏工業メッセ2017」が過去最大規模で開催	「諏訪圏工業メッセ」を10月19日から21日までの3日間、諏訪湖イベントホールにて開催しました。16回目を迎えた今年度は、県内外からの出展社(422社(558ブース))及び入場者数(27,742人)がともに過去最大を更新し、多くの商談の機会を生み出すことができました。
11月	八ヶ岳観光圏(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、観光庁から第1弾日本版DMOとして登録	富士見町、原村、山梨県北杜市で構成する八ヶ岳観光圏の(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、11月28日に観光庁から「日本版DMO」として登録されました。 登録により地域活性化のための活動に関係省庁から連携した支援を受けることができ、今回観光庁は、全国157(8月4日現在)の候補法人の中から、登録の第1弾として41法人を登録しました。
12月	富士見町内で捕獲されたニホンジカ肉の出荷再開	11月16日、富士見町で捕獲されたニホンジカから基準値(100Bq/kg)を超える160Bqの放射性セシウムが検出され、富士見町で捕獲されたニホンジカ肉の出荷等が県の要請により自粛されました。その後の緊急調査により基準値を超える放射性セシウムの検出がなく、富士見町内で捕獲されたニホンジカ肉の全頭検査の体制が整ったため、12月7日から安全性が確認された肉の自粛は解除され、出荷等が再開されました。